

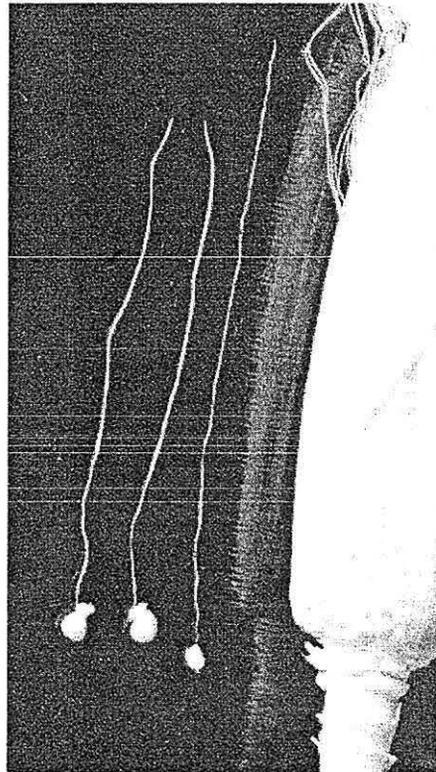
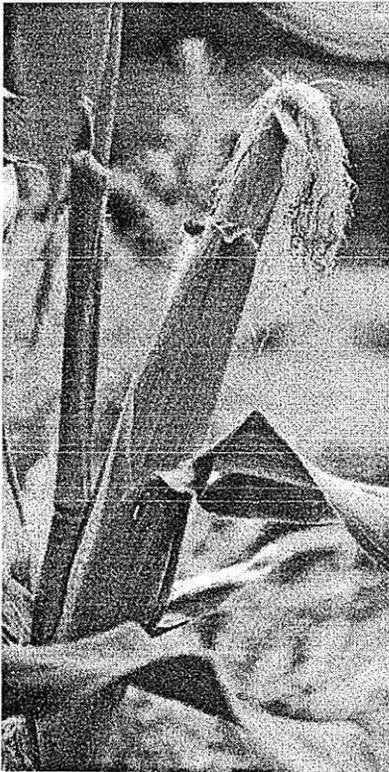
# とうもろこしのひげ

あざやかな<sup>きいろ</sup>黄色にゆであがったあつあつのとうもろこし。<sup>あつ</sup>暑い夏のおいしい<sup>た</sup>食べ物<sup>もの</sup>ですね。

とうもろこしは、畑で<sup>しゃしん</sup>写真のように実ってきます。<sup>ほ</sup>穂の先には、ひげのようなものがたくさんついていますね。このひげって何だ？ 気になってかさつしてみました。

実ったとうもろこしの<sup>みどりいろ</sup>緑色の皮を10枚ほどはがすと、黄色の食べる部分（コーン）がでてきます。さいごの皮とコーンの間には、今にも切れそうな白いひげがたくさん、はっているではありませんか。先ほどのひげはこまでつながっていたのです。さらに、つぶ（=実）を一つだけそとはずすと、ひげが一本だけついてきました（右の図）（ひげは途中で切れてしまったので、じっさいはもっと長い）。このひげは、「めしべ」。<sup>み</sup>とうもろこしは、「実」になる部分が皮に包まれているので、風で飛んでくる<sup>かふん</sup>花粉を穂の外で受け止めて、その<sup>いでんし</sup>遺伝子を「実の中のたね」にとどけるためには、長いめしべが<sup>ひつよう</sup>うしても必要なのです。

とうもろこし一本には、<sup>やく</sup>約600コの「実」が入っていますから、ひげも約600本あることになります。  
(おおたみちひと)



左：実りはじめたトウモロコシ。先にはひげがたくさんついています。

右：皮をむいてひげのもとをたどると、つぶ（実）一つの根もと近くにたどりつきました。このひげはめしべの先が長くのびたものです。